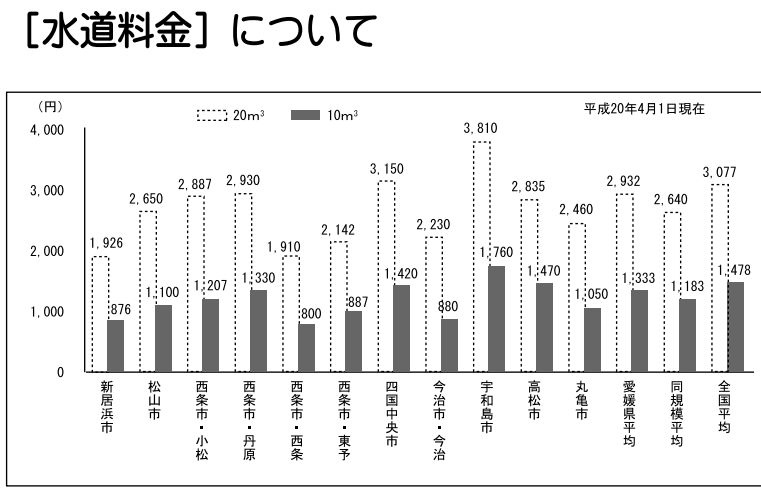


4 ご存知ですか、新居浜市

図に近郊の公共水道料金を比較しました（新居浜市・水道局調べ）。新居浜市は旧西条市に次いで低い料金です。これは、新居浜市は森林、田園など、緑豊かな地理的条件に恵まれていて、良質の地下水が豊富だからです。将来にわたって地下水を涵養するためには、森林、農地の保全が必須です。
(真鍋 昌裕)



5 20年度 環境家計簿集計結果について

新居浜市から委託を受けて、平成20年度は114名のモニター様に協力して頂いた環境家計簿の集計とデータ分析をした。

図1は、電気1(従量電灯)、電気2(深夜電力)、プロパンガス、水道および灯油について、1家庭平均のCO2排出量[kg]を月別に表わしたものである。冬期は暖房用の電力と灯油の消費が多くCO2の排出量合計が最も多い。夏季は冷房用の電力消費が多く冬季の2/3程度 の排出量である。平均月当りCO2排出量は 272.8 [kg]である。

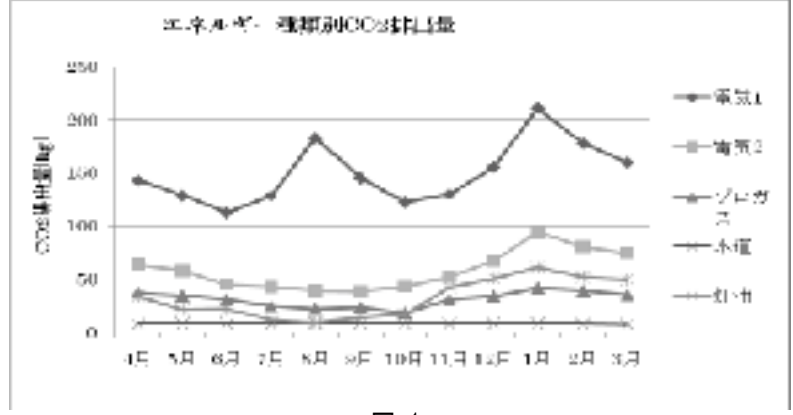


図. 1

次にモニターの内、オール電化家庭が21戸あり、それらの家庭平均のエネルギー別月毎CO2排出量を図2に示す。従量電灯および深夜電力の使用量が共に多い。また、オール電化家庭の平均月当りCO2排出量は 313.7 [kg]であり、オール電化でない残りの93家庭のCO2排出量が 257.1 [kg]である。両者を比較するとオール電化家庭がCO2の排出が多いように見られる。

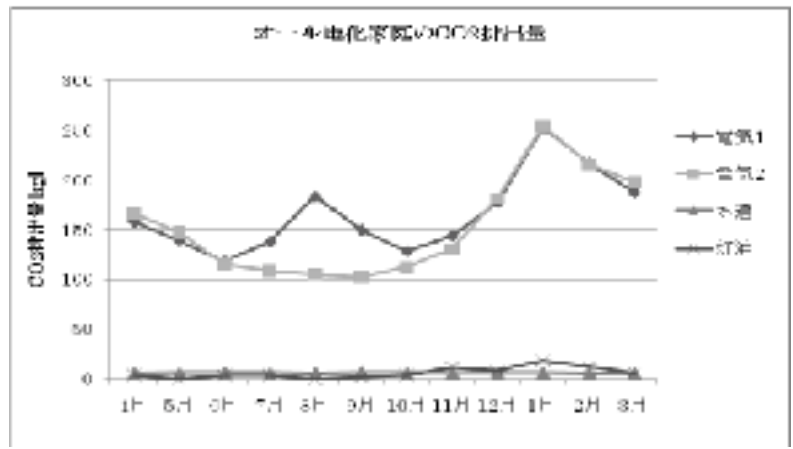


図. 2

しかし、深夜電力は昼間に比べて発電電力が少ない時間帯であり、火力発電が停止または軽負荷で運転されて原子力発電の負担が大き

く、CO2の排出は少ない。そこで深夜電力のCO2排出係数を仮に通常の1/2程度と見なすと、オール全電化家庭とその他の家庭のCO2排出量はほぼ同量の240[kg]程度となる。従ってこのデータから、両者のCO2排出量の差異を軽々に論ずることは難しいと思われる。

にいはま環境市民会議では、本年4月には平成21年度の環境家計簿記録の回収を行い、平成22年度の環境家計簿のモニターを募集して、データ集計と分析を継続して実施する。これによりご家庭の省エネルギーと温暖化防止に向けての活動を続けて行う予定であるので、ご協力をお願いしたい。

(近藤 康夫)

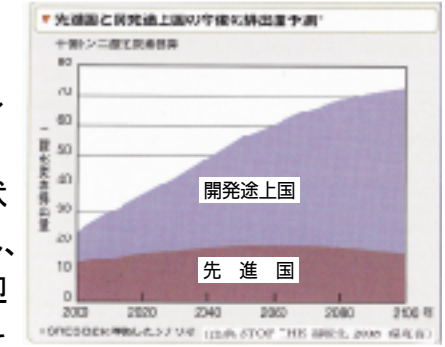
にいはま エコ通信 第4号

- 1 鳩山内閣のCO2削減目標について
- 2 エコ生活のすすめ
- 3 環境活動グループの紹介
- 4 新居浜市の水道料金
- 5 環境家計簿集計結果について

1 鳩山内閣のCO2 25%削減目標について



鳩山総理は、昨年9月初陣の国連での演説で25%削減を発表し脚光をあびた。世界のCO2排出量は右図のように開発途上国を中心に今後も増え続け、対策を取らなければ今世紀末には現状の約2.5倍になる。地球の平均気温は最大6.4度上昇も予測され、温暖化地獄に陥る。鳩山発表には、勇気ある先導的発言と歓迎する声と実現を危ぶむ声があるが、総理は「地球の命を守るためあえて高い目標を掲げた」と言っている。



1. 25%削減の根拠

地球温暖化に対する世界の気候関係科学者の提言 (IPCC第4次報告書)

- (1) 温暖化による人類の危機を救うには、地球平均気温を産業革命以前より2度以上上げてはならない (現状既に約0.8度上昇)
- (2) そのためには、世界全体の温室効果ガスの排出量を1990年ベースで2050年までに半減必要であり、先進国は80%以上削減必要
- (3) そのためには2020年までに先進国は25~40%削減必要

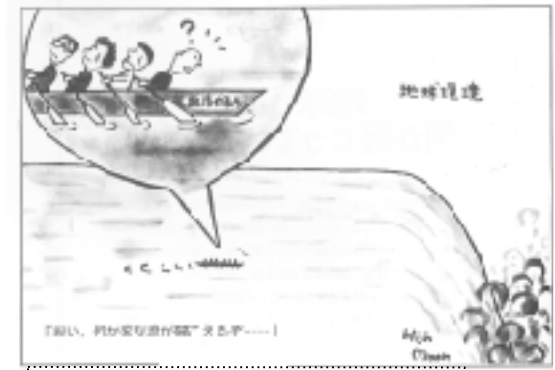
2. 主要排出国の2020年までの削減目標

	世界の排出割合%	削減率%	基準
米国	20	17	2005年
EU	14	20~30	1990年
ロシア	5	15~25	1990年
日本	4	25	1990年
中国	21	40~45	2005年、但しGDP当り
インド	5	20~25	

左の表(朝日2010.2.3)は昨年12月、コペンハーゲンで開催されたCOP15(気候変動枠組み条約第15回会議)の合意に基づき1月末に各国が国連に提出した削減目標である。国連環境計画は、この案では気温上昇2度以内抑制は困難と報告。中国、インドの目標はGDP当りでは大幅な減少を示しているが、排出総量では2020年に向かって大幅に増える(中国+88%~、インド+127%~)。日本の25%削減(2005年比では30%削減)は、科学者の提言に対しては最低で、又中国や米国など主要排出国が意欲的な排出目標を示すことを条件としている。

3. 地球温暖化対策は人類にとって最も重要で最も解決が困難な問題

大きな川の中を経済成長号と名付けられたボートが川下に向かって進んでいる。その先には地球環境の有限という大きな滝が存在する。ボートの先頭にいる世界の科学者たちは科学の成果に基づき温暖化の危機を警告し、対策の実施を強く要望しているが、大部分の人々は前を見ずにボートを漕ぎ続けている。地球温暖化については、既に世界各



マンガで学ぶエコロジー 昭和堂 2007.1.15
ハイ・ムーン作